丸山忠男議員

● 山岸市長の市政運営について
● 小・中学校の道徳教育について

そのほかの質問
・西環状線沿いの用途地域での住宅建設問題について
・旧神谷製材所廃工場問題について　・職員の勤務姿勢について

一般質問

問 山岸市長は、21世紀の初代市長として就任され、「ふるさとルネッサンス」を基本理念に、「エコミュージアム構想」によるまちづくりを進められて、過去4期16年の政治姿勢、政策、そして運営のトップとして重責を担ってこられ、その成果は顕著である。そして今4期目の最後の年に、新体育館「ジオアリーナ」の完成を経て、重点道の駅、旧料亭花月楼、長尾山交流センター、観光まちづくり株式会社等の課題に取り組まれている。市長としてこうした課題を残したままにして市政運営から撤退するというのは大変残念なこと。市長の今後の市政運営について見解を伺う。

答 熟慮を重ねた結果、勝山市のために全力を尽くすという覚悟を持って、来るべき選挙に臨みたいと考えている。4期16年間の実績を検証していただき、さらに5期目となる市長として適任かどうかのご判断を有権者である市民の皆様に委ねたい。

勝山市は勝山市民のものであり、その市長もまた市民のもの。このことから、来るべき選挙において、私がその任に相応しいかどうか市民のご判断をいただきたい。

問 ①現在の小中学校の道徳教育の現状について。②子供の挨拶について。子供が率先して見知らぬ大人達に挨拶する姿は、見ていてもされても気持ちの良いものだ。しかしながら、実際には挨拶を率先してする子供は多くはいない。学校でも家庭でも指導や躾をしているとは思うが如何だろうか。スポーツをしている子供とそうではない子供、制服を着ている子供と普段着の違い、学校間の差等について教育長の見解を伺う。

答 ①勝山市の小中学校では、かねてから道徳教育の研究を盛んに行っている。全ての学校で道徳の公開授業を行い、先生方が互いに学びあい、道徳の授業力を高める取組を行っている。

②制服の関係があるのかどうか分析はしていないが、登下校時や休日に地域の中へ出たときに、恥ずかしさから挨拶が十分にはできない児童生徒もいると思う。また、同様の指摘もいただいており、家庭や地域と連携し明るく元気な挨拶が実践できるようさらに努力していきたい。

田中三津彦議員

● 新幹線福井開業に向けた福井商工会議所の提案について
● 防災訓練の在り方について

そのほかの質問
・叙勲を受賞された方への祝意等の表し方について
・「福井県高速交通開通アクション・プログラム」について

一般質問

問 福井商工会議所は「300万入館者を目指した恐竜のキラーコンテンツ化と本物志向の『おとな』が満足できる観光の確立」を戦略として掲げ、えち鉄の博物館までの延伸、第2恐竜博物館の早期建設等、永平寺と朝倉氏遺跡に白山平泉寺などを連携させたPR、商品化等を提案している。勝山市にとって魅力的な提案で、連携して実現に努めるべき。

答 福井商工会議所の担当者をお招きし、報告書を元に意見交換をさせていただいた。その際、福井商工会議所から、すでに勝山商工会議所に対しても当報告書の説明は実施済とお聞きした。

北陸新幹線が福井駅まで開業されると首都圏をはじめとする観光客がさらに増えることが予測される。今後は、福井商工会議所の提案を参考に、勝山市観光まちづくり株式会社を中心として、勝山市も関わる中で検討が必要かと考える。

問 6月26日に総合防災訓練が実施されるが、本来は基礎的な訓練から始め、段階的に仕上げていくべきものだが、そうなっていない。また、本訓練には多くの機関等が参加するが自衛隊は参加しない。勝山市を担当する第14普通科連隊第3中隊長（金沢）によると、大野市の防災訓練等には参加しているという。市の訓練に対する考え方を伺う。

答 総合防災訓練の水準を向上させるために、勝山市災害対策本部運営要綱にある班や部レベルの訓練を個別に実施し、職員自らが考え、課題を整理した後、総合訓練に臨むという手順は有効であると考える。しかし、総合防災訓練は出水期に入る頃の6月下旬に行うこととしている。個別訓練を実施するためには実施時期や内容を十分検討する必要がある。ご指摘の内容を含め、今後十分検討する。

昨年の総合防災訓練では自衛隊の参加はなかったが、本年度は陸上自衛隊第14普通科連隊第3中隊長に総合防災訓練を視察いただくこととなった。これをきっかけとして、防災面で自衛隊が参画していただけるよう調整していく。